

神奈川支部情報

第6号 発行日 2007年8月8日

<発行者> 撫順の奇蹟を受け継ぐ会神奈川支部

<連絡先> 松山英司 TEL/FAX 046(871)4263

e-mail mt-h-uk@tbc.t-com.ne.jp

郵便振込口座 00190-2-114578

5月13日の支部第5回総会（2007年度）に続いて、県民サポートセンターにおいて7月8日に第1回支部会を開催しました。

議題は以下の通りです。

議題1、支部総会、証言集会の反省と今後の取り組みについて

①第5回支部総会報告については先日本配りしました「支部総会報告」のとおりです。

②5. 13 証言集会参加者のアンケートについて報告します。

50名の参加者の半数以上の27名からアンケートが回収できました。

そのうち入会希望者が1名、「今後も情報を希望する」という方が10名ありました。受け継ぐ会の活動にとって少しずつ先が見えてくる思いがします。

<アンケートの意見の一部を紹介します>

- ・ 姫田先生、「無知といかにたたかうか」を激励していただき、ありがとうございました。「教え子を戦場に送らない」ために重要なことだと思います。(70代・男性)
- ・ 体験者の生の声を聞くことは本当に大切ですね。(50代・男性)
- ・ 1945年以前を詳しく知ること、体験者から具体的に伺うことがとても大切であることがよくわかりました。平和憲法実現に役立てていきます。(50代・男性)
- ・ 今の世界情勢を知り、これからの日本の国のあり方、日本人としての自己のあり方を考えるならば、あの戦争は何だったのかを知らなくては前に進むことはできないと思います。時の経過によって失われてよい記憶はありません。(30代・女性)
- ・ 日本と中国と朝鮮の話を、時点時点をつなぎながらだいたい書いた者です。姫田先生は尊敬しています。とにかく日本と中国だけ、中国だけ・・・の歴史では本質は見えないと思う。(70代・女性)

昨年絵鳩さん証言集会に引き続いて、神奈川支部の今後の活動についての責任と同時に活動の基盤がつくられつつあると評価しています。

議題2、湘南支部結成について

・「支部総会報告」で報告したとおり6月3日に小田原を中心に湘南支部は結成されました。今後は県の西部、東部両拠点で車の両輪として連携を取り合いながら切磋琢磨していきたいと思っています。

議題 3、第5回撫順の奇蹟を受け継ぐ会本部総会報告

6月10日第5回本部総会が川越の「中帰連平和記念館」で開催されました。松山と田村が出席してきました。

前日9日には地方からのビデオによる学習会、参加者、中帰連の方々の出席者たちとの交流会、親睦のための夕食会など楽しい時間を過ごしました。中帰連の高橋さん、金沢から奥様と一緒に駆けつけてくださった森原さん、地元埼玉の稲葉さんが出席されてお元気なお顔を見せてくださり、近況を話してくださいました。

10日の総会後の午後、「森原さんと稲葉さんの対談（お二人とも太原戦犯管理所体験者）」という形で山西省残留問題や、太原戦犯管理所での体験を証言していただきました。

総会での人事については代表：仁木ふみこさん、事務局長：熊谷伸一郎さん、事務局次長：芹沢昇雄さんと従来どおりのメンバーが選出されました。松山も神奈川支部代表として本部運営委員として選出されました。

荻部一朗さん(横須賀市在住)のお話しについて

元中帰連会員荻部一朗さんとお会いして話しをきくことができました。荻部さんは、今まで中帰連の活動に参加される機会がほとんどありませんでした。そのことを気になされて私たちからの呼びかけにも消極的でした。このたび、上記の稲葉さんからも声をかけていただき、快くお話しに応じてくださいました。先日荻部さんと連絡を取って下さった埼玉支部野村代表と一緒に荻部さんとお会いしてきました

荻部さんは太原戦犯管理所の体験者で、今まで多くの話を聞いている撫順での体験とは異なる体験の持ち主です。「山西省残留」組で、しかも撫順組も太原組も大半の人が帰国した1956年よりさらに3年後にようやく帰国が許されたされたという厳しい体験をお持ちです。それだけ、より大変なご苦労されました。

荻部さんに受け継ぐ会の活動や、中帰連記念館の活動を説明したところ「そんなにいいことをやっているのか」「何でも協力するよ」と仰ってくださいました。これから回を重ねて体験話をお聞きしたいと思います。

第2回支部会開催について

日時 8月26日(日) 13時30分より

場所 県民サポートセンター ミーティングルーム 703

議題：① 秋以降の聞き取りの計画について

② 荻部さんのお話(当日参加していただきます)

③ 湘南支部主催 大河原さん学習会、証言集会について

④ 「9条フェスタ2007」(9月29日)について

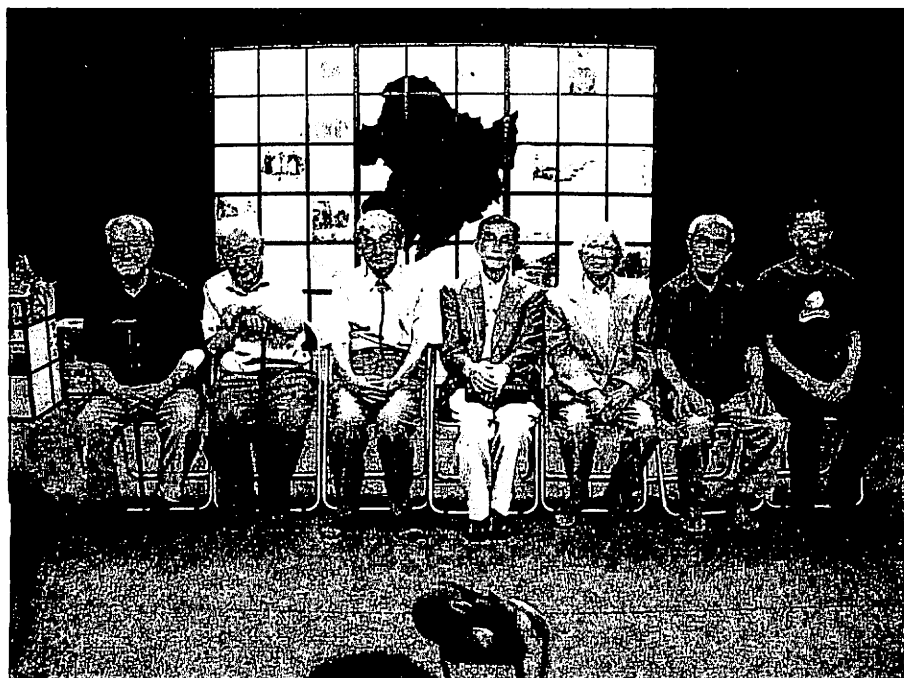
⑤ その他

* 5月13日証言集会での久保寺さん証言原稿をワープロで整理しています。もう少し時間をください。

季刊「中帰連」創刊10周年記念読者の集い開催

7月28日に劇団「なんじゃもんじゃ」による一人芝居「悔悟の記録」（中帰連会員土屋憲兵の体験をモデルにした芝居）読者の集い記念上演会が行われました。西尾さんの迫真にせまった芝居に会場全体が吸い込まれるようでした。

絵鳩さんをはじめ、久しぶりに中帰連の方々の元気な顔を拝見することができました。絵鳩さんは中帰連誌創刊時の初代編集長でしたので、感慨深い挨拶をされました。（次ページに挨拶掲載）



左から小山一郎さん、金子安次さん、絵鳩毅さん、船生退助さん、篠塚良雄さん、坂倉清さん、劇団「なんじゃもんじゃ」の西尾さん

中帰連の皆さんも大変お元気でした。最年長の絵鳩さんは今年94歳に なりましたが、本当にびっくりするくらいお元気でした。行き帰りのお供のときも絵鳩さんは雄弁で、いろいろな話をしてくださいました。

帰りに駅まで、絵鳩さんと船生さんと御一緒したのですが二人とも「歩きます」とタクシーを断って、あの蒸し暑い中を約10分駅まで歩きました。駅までついても「ぜんぜん平気です」と言われて、驚くばかりでした。

季刊「中帰連」創刊 10 周年読者の集い（07 年 7 月 28 日）

<創刊時の編集長・絵鳩毅さん挨拶>

元中帰連会員絵鳩毅と申します。今から 10 年前は 84 才で、私も血気盛んでした。創刊「中帰連」の編集スタッフの一員となりましたが、当時はわが会の敵でありました「自由主義史観」の御用学者たちと論戦をすることに生き甲斐を感じていました。いまは耳が不自由となり、目も衰えてわが最愛の雑誌「中帰連誌」も拡大鏡に助けられて拾い読みをするという、情けない一読者となりました。そんな私ですが、本日「中帰連創刊 10 周年の読者の集い」に招待いただきましたことに感謝申し上げます。

いまから 10 年前を思い起こしてみますと、戦後新たに登場しました反動集団、つまり歴史を改ざんすることによって日本国民に新たな夢を持たせようとする反動集団＝ネオ・ナショナリズムが台頭いたしまして、しきりに政治的な暗躍を続けておりました。ついには終戦 50 年国会決議を全くの骨抜きにしてみました。

彼らの一味である自由主義史観の学者たち、藤岡らの御用学者たちはわが会を目の仇にして中傷、誹謗を始めました。季刊「中帰連」は彼らと闘うための武器として創刊しました。幸い、多大な支援をいただきまして、非常に大きな社会的反響を呼ぶことができました。事務所の電話は鳴りっぱなしで、当番の会員たちは大忙しでした。それに応えるために、創刊第 1 号は三度班を重ねまして、7000部を世に問うことができました。

この様にして新しいスタートを切りましたが、「中帰連」という雑誌は大衆の支持を集めまして順調な発刊を続けましたが、創刊後 5 年経った時点で、わが会の解散と共に廃刊の運命に立たされました。だがそのとき、典型ともいべきわが会の精神を受け継ぐ「撫順の奇蹟を受け継ぐ会」が誕生しました。ために、わが会の魂ともいべき中帰連誌はおかげを持ちまして現在まで生き延びることができました。

生き延びただけではなく、仁木、熊谷両氏らを長とする編集スタッフらの、並々ならぬ努力によりまして、創刊を遙かにしのぐ意義ある雑誌に成長しました。ここに心から感謝を申し上げるとともに、厚く御礼を申し上げます。

ここで現在の日本の現状を思うとき、10 年前は陰の勢力として政治的暗躍を続けてしておりました反動集団は、10 年後の今日、すでに彼らは公然と政権を手にしております。つまり、いまの安倍内閣とは最大の右翼集団である「日本会議」のメンバーで構成されています。高らかに、堂々と「憲法改正」を唱えています。これは、日本国民を再び戦争の道へ導くために陰謀以外のなにものでもありません。この様な祖国の非常事態をむかえた今、わが会はいかにあるべきかということを改めて問いただすことは無駄ではないと考えます。今日、この集いはまさにその好機であると言えます。忌憚のない意見を出しあいまして、わが会を一層向上させ、一段と広い大衆の心を掴み、反動政権のたくらみを砕く一大勢力に高めていただきたい。簡単ですがご挨拶に代えさせていただきます。（拍手）